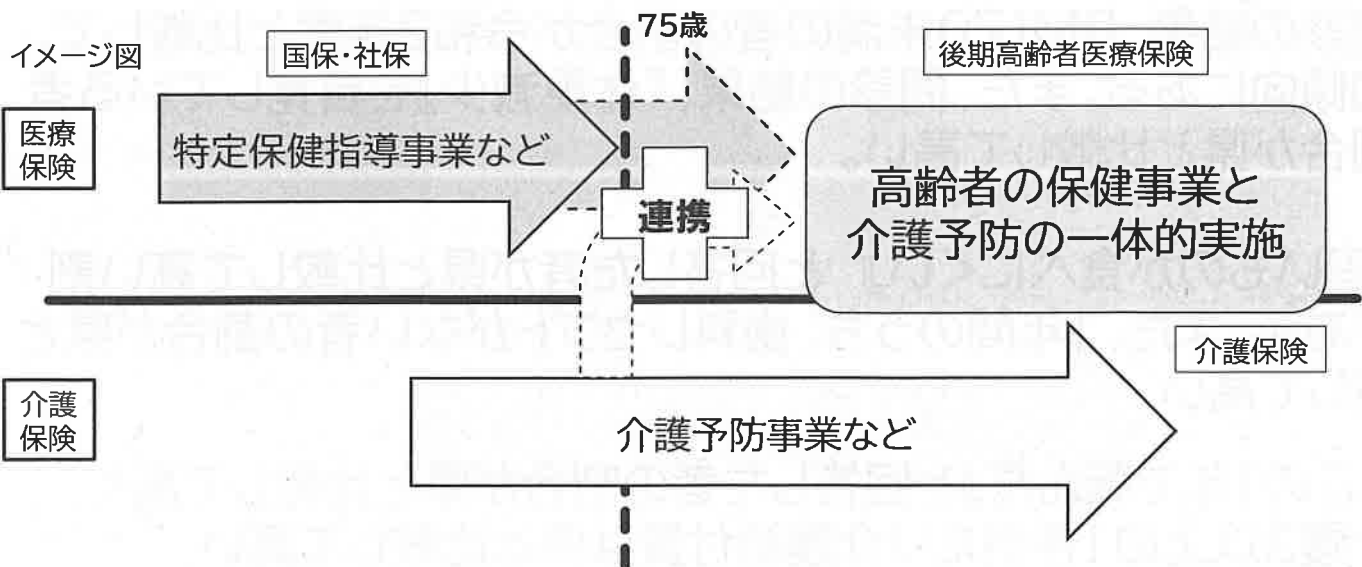


銚子市 高齢者の保健事業と介護予防の 一体的実施について

令和5年度第1回 銚子市介護保険事業等運営協議会
健康づくり課 保健師 鈴木千尋

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施とは

2



銚子市の後期高齢者の健康に関する現状

3

- ①健診受診率:21.0% 県(29.8%)
- ①健診の結果、要受診者の受診率:57.6% 県(60.3%)
- ②脳梗塞の医療費割合: 8.8% 県(6.5%)
高血圧症の医療費割合:7.8% 県(6.6%)
- ②透析の新規導入:毎年約30人(R3:32人、R4:33人)

KDB:令和3年度 健診・医療データより算出

銚子市の後期高齢者の健康に関する現状

4

- ③健診の結果、BMI20未満の者の割合が令和2年度と比較して、増加傾向にある。また、問診の結果、『体重減少』を自覚している者の割合が県と比較して高い。
- ④『固いものが食べにくい』と回答した者が県と比較して高い割合である。また、1年間のうち、歯科レセプトがない者の割合が県と比較して高い
- ⑤『この1年で転んだ』と回答した者の割合が県と比較して高く、要介護3以上の1件当たり介護給付費は県と比較して高い

KDB:令和3年度 健診・医療データより算出

銚子市の高齢者の健康課題

- ① 自身の健康状態を適切に把握できていない
- ② 生活習慣病重症化のリスクが高い
- ③ 体重減少が顕著で低栄養状態となっている者の割合が高い
- ④ オーラルフレイルを抱えつつも、歯科受診していない者が多い
- ⑤ 転倒経験のある者の割合が高く、介護給付費も高い
- ⑥ 移動手段が限られており、社会参加が妨げられ、フレイルが進行する恐れがある

ハイリスクアプローチ

○健康状態不明者の把握

前年度に医療・介護・健診の利用がなかった者に対して調査票を送付。返信結果に応じて事業案内

○低栄養予防

健診などから体重減少した者に対して管理栄養士・歯科衛生士が食事・口腔の相談実施

○口腔機能低下予防

『固いものがかみにくい』『むせがある』、またはHbA1c7.0%~で歯科受診なしの者に対して歯科衛生士が口腔の相談実施

○生活習慣病重症化予防

健診の結果、血圧・血糖・脂質・腎機能いずれかの数値が要受診判定の者で未受診者へ受診勧奨

ポピュレーションアプローチ

7

○プラチナ体操での支援

保健師・管理栄養士・歯科衛生士がそれぞれ健康教育を実施する3回1コース。内容は、フレイルに関する啓発、調査票によるセルフチェック、低栄養予防、オーラルフレイル予防に関する講話。各回の最後に個別相談を行う他、初回のセルフチェックにてハイリスク者となった者は各担当専門職で情報共有を行い、支援につなげる。

○立ち寄り型の通いの場での支援

保健センターや文化祭などの地域イベントの場において、フレイルに関する啓発や個別相談コーナーを設ける。

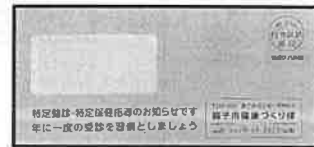
まとめ

8

○ 後期高齢者(75歳～)への**健診受診**を勧めてください。

※ 4月末に対象に全数通知済み

※ 通院中の方も、受診可能



○シニア健こう教室は、1～2か月に1度、**個別相談**を行っています。支援者の皆さまから、気になる方がいれば、健康づくり課までご相談ください。

問い合わせ先: 銚子市役所 健康づくり課

高齢者の一体的事業担当 0479-24-8070

健康状態不明者の実態把握事業

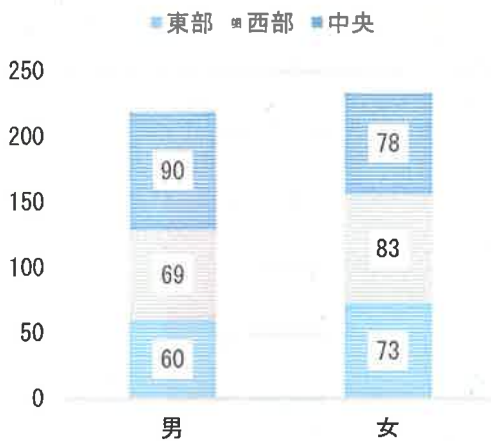
令和3年度中に、医療未受診・介護サービス利用無・健診の利用状況無で、健康状態の把握ができない方を対象に、健康状態に関する調査票の送付。返信の無かったものに対し、電話または訪問にて状況確認。

○対象：453人

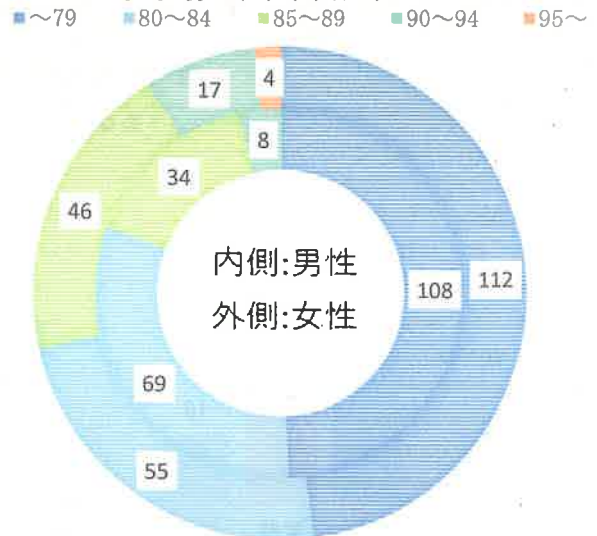
○調査票期間：令和4年6月3日～6月30日

○方法：調査票を送付し、返信のなかった者に対し、電話又は訪問にて状況確認

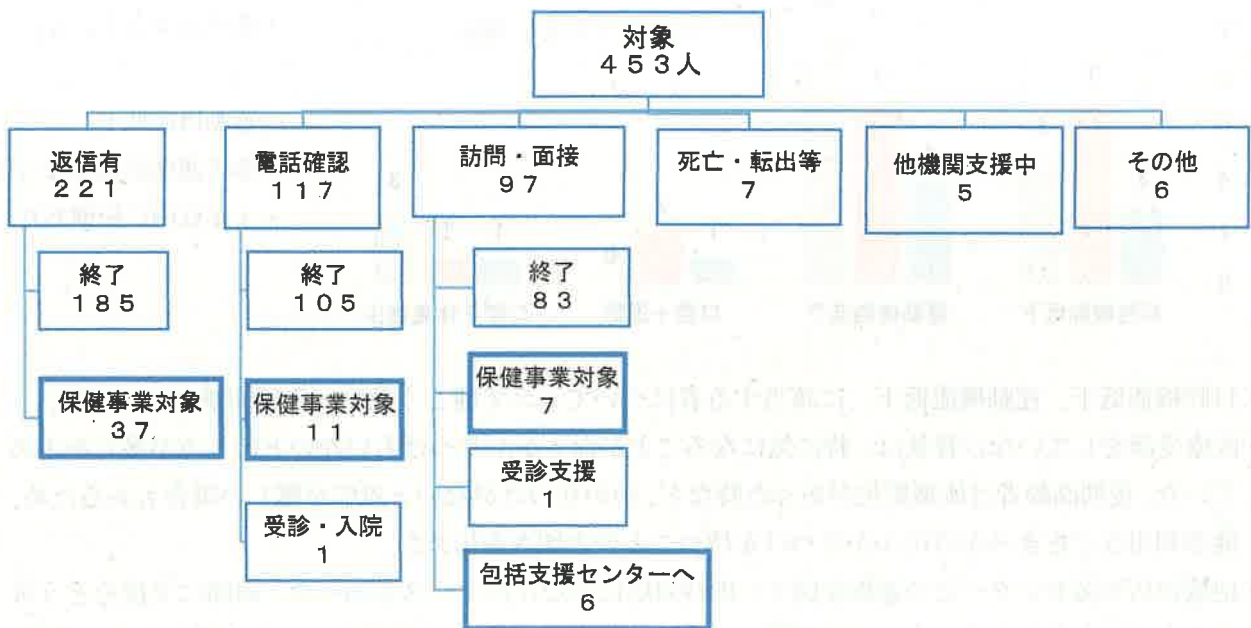
対象数（地区別・男女別）
N=453人



対象数（年齢別） N=453人



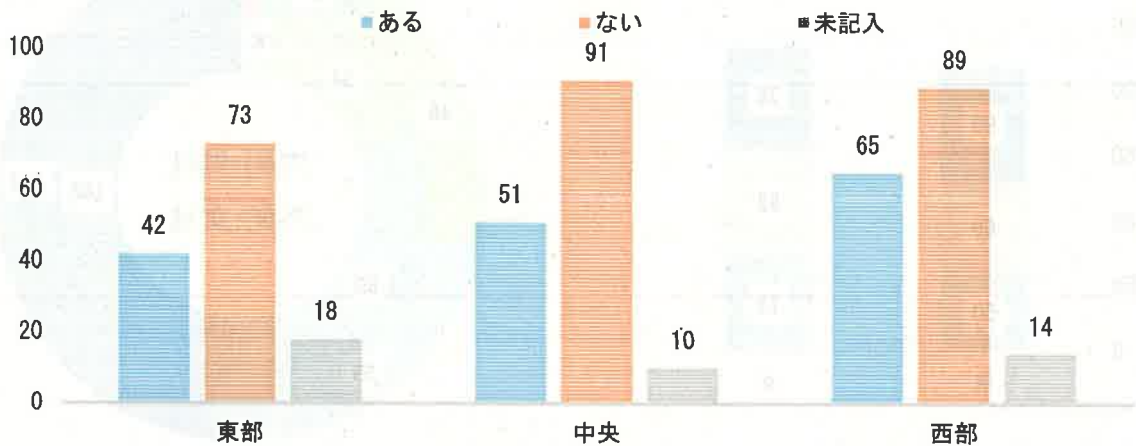
○把握結果について



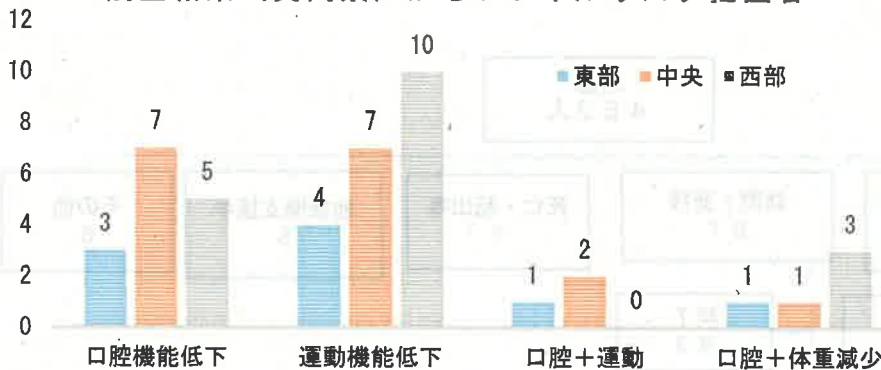
健診を受けていない理由 N=402人



かかりつけの有無 N=453人



調査結果（質問票）からフレイルリスク把握者



- ◇口腔機能低下
 - ・固いものが食べにくい
 - ・飲み込みがしにくい
- ◇運動機能低下
 - ・歩く速度が遅くなった
 - ・1年以内に転倒あり

- ・口腔機能低下、運動機能低下、に該当する者についてシニア健こう教室（詳細別紙）への案内。
- ・医療受診をしていない背景は、特になんか気になることがなくかかりつけもないという方が多くを占めていた。後期高齢者は体調変化があった時など、かかりつけがないと対応が難しい場合もあるため、健診利用などをきっかけにかかりつけを持つことの大切さを伝えた。
- ・地域包括支援センターとの連携を図り、虐待対応につなげたケースもあった。周囲に支援をどう求めたらよいかわからないケースも把握し、アウトリーチとしての意義もあったと思われる。医療、介護、健診といった何かしらの異変に気付くきっかけが途絶えないよう、関係機関と連携を取りながら次年度も実施していきたい。

低栄養予防・口腔機能低下予防・生活習慣病重症化予防

1) 重症化予防対象項目に該当する方について、個別面接にて受診勧奨および保健指導の実施。

対象：次の①～⑤に該当し医療機関受診のない80歳未満の者

- ①糖尿病性腎症重症化予防「HbA1c7.0以上」かつ「尿タンパク±以上又はeGFR45未満」
- ②HbA1c7.0%以上
- ③収縮期血圧160mmHg上又は拡張期血圧100mmHg以上
- ④LDLコレステロール180mg/dL以上（男性のみ）
- ⑤腎機能低下 尿タンパク+以上又はeGFR45ml/分/1.73m²未満

支援状況

健診種別	対象	電話	面接	対応中
集団	10	5	4	1
個別	33	20	0	13

2) 後期高齢者の質問票からフレイルリスクのあるものに保健事業の紹介

フレイルリスク項目	支援状況
① 低栄養リスクのある者	次ページ 低栄養予防資料参照
② 口腔機能低下のある者	
③ ②の者の内、 HbA1cが7.0%未満の者	対象：28名 13名：電話にて教室案内・歯科指導実施 1名：シニア健こう教室参加
④ 運動機能低下リスクのある者	歩く速度の低下を感じる」かつ「1年以内に転倒あり」の者の内80歳未満 対象：39名 16名：電話にて 個別相談及び運動教室、個別相談会の案内

早退実	場合	該当	対面	案内
14.18	121	101	71	85

早退実	場合	該当	対面	案内
2001	7	0	1	7

シニア健こう教室（ハイリスクアプローチ）実績報告

対 象	① 85歳以下で令和4年度後期高齢者健診受診者のうち、BMI 18.5未満の者 または1年間で3kg以上の体重減少がみられた者 ② 85歳未満の後期高齢者で、HbA1c 7.0%以上の者、または後期高齢者の問 診で「固いものが食べにくくなった」および「むせがある」と回答した者 ③ 通いの場の健康教育および実態把握調査で低栄養予防が必要と判断された 者 ※ いずれの対象も事業参加の同意が得られた者とする。
除外要件	対象① 医療機関等で重複する内容の指導を受けている者、生活習慣病、が ん、認知症、うつ、統合失調症、人工透析等のレセプトがある者、介護給付を 受けている者 対象② 対象①の除外要件に加え、1年以内に歯科のレセプトがある者
周 知	集団健診受診者：健診結果返却時に教室の紹介をし、事業参加意思があった場 合は結果説明に続いて低栄養予防の面接実施。 個別健診受診者：参加勧奨の電話かけを行い、事業参加意思があった場合、面 接日を決定する。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士による食事内容の確認、体重測定、ふくらはぎ周囲長測定、握力測 定、低栄養予防の栄養相談等 ・歯科衛生士による口腔状態の確認、咀嚼機能チェック、口腔体操指導、低栄 養予防の歯科相談等 ・健康運動指導士による、ロコモ予防の小集団での運動実習（10～2月に3回実 施） ※必要に応じ、かかりつけ医、かかりつけ歯科医に報告し、指示等の確認をする。
実施時期	令和4年8月～令和5年7月終了予定

【実績（令和5年1月4日現在）】 ※ 電話は電話にて助言し終了した者

対象① (名)

対象	面接	電話	合計	実施率
179	47	104	151	84.4%

※ うち9名が運動教室に参加

対象② (名)

対象	面接	電話	合計	実施率
7	1	6	7	100%

対象③ 対象：0名